

総合学術研究科に入って得られた成果

2005年度 博士前期課程修了 館昌彦さん

初めのうちは「やらされて」いました

私は今、病院で薬剤師をしています。調剤業務などのルーチンワークもたくさんあります。業務時間はほぼルーチンワークで占められる中、普段の仕事で興味を持って取り組んだり、社会人ドクターに入り基礎研究を行ったりしています。今もモチベーションを維持してやれているのも、この研究科の経験のおかげだと思います。

勉強は小さい頃からあまり好きではありませんでした。共感してもらえる方もいるかと思いますが、用意された教科書を使った勉強、テストに間に合うようにほぼ過去問を丸暗記するパターンが苦痛でしかなかったからです。そんな勉強法と同じで最初は大学院の研究もやらされている感じでした。その理由は明らかで、考える脳は自分ではなく先生や先輩だったからです。



でも、すごく大変ではありましたが、何度も先生とディスカッションして自分の研究の背景が見えてきて具体的な実験方法を計画できるようになってから、辛い気持ちから実験をする楽しみに気持ちがシフトしていたように思います。このちょっとした快感が今のモチベーションとなっています。

具体的にこんな実験がしたい、というふうな目的をもって研究科に入られる方はすごいなって思いますが、それが見つからなくても進学してOKだと思います。自立して考えて物事を進める楽しさという物が大学院にはあると思います。



楽しかったこと

所属していた研究室では夏場にアオコ狩りに出かけていました。夏場によく湖で見られるアオコ現象ですが、有毒化合物を産生することが知られています。研究室ではその化合物を研究していて、研究材料としてよく諏訪湖、相模湖にアオコを採取しにいきました。アオコからその化合物を精製して実験に使うことで実際の生活環境との繋がりを意識しながら実験ができるのも魅力だと思います。

あと、アオコの有毒化合物が疑われた野鳥の変死事件の分析を担当した事もあります。実際に現場に出向いてため池の水を採取し、有毒化合物の存在を確かめる為に分析しました。事件性に関わるような研究もさせてもらって貴重な経験ができました。



今の仕事に活かされていること

今の仕事に役に立っている事といえば、英語論文の読解力が身に付いたことです。薬の情報を調べる上で文献検索が必要なことがよくあります。英語は苦手ですが、文献紹介や修論を書くためにたくさん英語を読んでいたことで、抵抗感がなくなりました。

あと、すごく大切にしたい事は人とのつながりです。総合学術研究科は年に2回総合コアというセミナーがあり、また祝賀会等で先生とお話しする機会があります。そういったところで普段は関われない先生とお話し、どんなことをされているかなどを知ることができます。今でも先生方に仕事、研究、プライベートの相談に乗って頂くことがたくさんあります。

----- 今回の先輩 -----
愛知医科大学病院
館 昌彦 (たち まさひこ) さん
2005年度博士前期課程修了